

足利大学 後援会 会報

第67号

発行

足利市大前町268-1

足利大学後援会

ご挨拶



足利大学後援会 会長
上野 ゆり子

日頃より後援会活動へのご理解、ご協力厚く御礼申し上げます。

六月二十九日に開催されました令和六年度、足利大学後援会総会にて承認いただき会長の大任を仰せつかりました上野でございます。

本年もこうして対面での後援会理事会を無事に開催することができました。活発な意見から後援会にも活気が増してきました。

学生達への「教育助成」「厚生事業活動」では引き続き「朝食サポート」「クラブサークル助成金補助申請のプレゼンテーション」にて学生の熱意を間近で感じることができました。後援会としても学びやすく活動しやすい環境を支援していけますよう連携をとっていければと思っております。

また、理事会にて選任された理事の方々とも、より親睦を深められますよう、昨年からの懇親会を開催し、今後の運営にも協力体制が築かれ、学生達への支援を深めることができました。ありがとうございます。

本年度の後援会の活動は事業計画に基づき、総会・理事会を開催することにより、皆様のご協力やご支援のもと会則にある学生の福祉を増進し、本学教育目的の達成を支援していきます。

各種活動支援としては、卒業研究・学会等の成果発表に係る交通費の支援やクラブサークル・自治会や球技大会、大学祭の行事経費支援と工学部、看護学部ともに在学中に取得可能な資格が多数あり、試験費や受験料の支援も継続してまいります。

環境面では、看護学部のマイクローパスを臨時実習等の移動にお役立ていただきありがとうございます。

他にも通っている学生が充実したキャンパスライフを過ごせるように教育環境整備として各種設備の備品等の寄贈も計画的に行ってまいります。

生や大学からの要請に基づき、理事会が決定した支援活動も継続してまいります。

今年で「五十六回目」を迎える「わたらせ祭」は、昨年、四年ぶりに対面で開催することができ、大前キャンパス内に学生達の大きな声、長蛇の列やライブ等で活気にわきました。後援会としても出店させていただきました。悪天候ではありましたが、予想以上に盛り上がりを見せました。前会長や「わたらせ祭」役員の方々のご尽力でもあり、ありがとうございます。

本年も実施いたしますので、「わたらせ祭」には是非お越しください。日頃、見ることもできない学生達の輝きを応援してあげてください。

最後にコロナ感染がなくなった状況ではありませんが、徐々に以前のような支援活動が実施できていると実感しております。充実した学生生活を送り、学生達の国

内外での活躍を願っております。後援会の皆様におかれましては引き続き、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

退会役員

長期にわたり、後援会にご尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございます。

- 理事 青木真由美 様
- 理事 大橋 弘 様
- 理事 神谷 和与 様
- 理事 小暮 陽子 様
- 理事 永田 淳子 様
- 理事 増澤 香織 様
- 理事 吉澤 朋子 様



令和6年度 後援会総会（6月29日開催）

足利大学のACT 2024



学長

末武 義 崇

催しました。また、足利市工業団地工場連絡協議会でCNに係る本学の活動を紹介しました。次に、「ACT ION 02 DXに繋がる教育」です。AIを活用した採点業務支援システムや健康観察アプリを足利市内の小中学校向けに開発・導入するために、本学の学生が協力していることは昨年お伝えした通りです。さらに、今年度後期、足利市内の企業支援に繋がるゼミ科目「地域DX化教育プロジェクト」をスタートさせます。足利市役所において五月二十日に、足利市、足利商工会議所、足利大学の三者で合同記者会見を実施しました。下野新聞（五月二十三日付）など、メディアを通じて公表されております。

情報については、大学ホームページの情報を逐次更新していきますので、注目していただきたいと思います。学生の多様な力を育むべく、

教職員一同丸となって実績を積み上げております。今後とも、後援会の皆さまのご理解とご協力を、宜しくお願い申し上げます。

アフターコロナ2年目に向けての工学部の取り組み



副学長兼工学部長

安藤 康 高

本格的に「アフターコロナ時代」に入り一年が経過しましたが、地方の私立大学を取り巻く環境は、より一層厳しさを増しております。こうした中にありましても、後援会の皆さまには、本学の教育・研究に対しまして変わらぬご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

「国際交流」の三つの柱を主軸としています。この「三つの柱」は突然思いついたものではなく、これまで本学が積み重ねてきた教育・研究活動の実績に基づいたもので、昨年、一昨年もこの後援会会報で皆さまに進捗状況をお知らせしてきました。今年度は、これら「三つの柱」に関する直近の情報を整理した上で、大学のホームページに改めて公開しました。今回の会報では、これらの情報についてお伝えしたいと思えます。

三つ目の「ACT ION 03 国際化に繋がる教育」については、昨年からリアルに再開している米国イリノイ州立大学スプリングフィールド校（UIS）やフィリピンのマリアナマルコス州立大学（MMSU）への短期留学の様子がアップされています。海外からの受入については、台湾の中華医事科技大学（HWA）やUISからの短期留学生の様子をアップしています。

後援会の皆様には、平素より教育、研究、就職に関するご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。二〇二三年五月に新型コロナウイルス感染症が第二类から第五類へ移行し、大学内の活動もリモート主体から対面を中心とした活動へとシフトして参りました。二〇二三年度は、三年間にわたる中断期間を経て再開した活動も多く、コロナ禍前のノウハウを持つ先輩が全員卒業した後の状態からのスタートでしたが、学生の皆さんの頑張りのおかげでわたらせ

祭の対面開催をはじめ、数々の行事・活動を成功裏に終えることができました。本年度は、年度始めよりほとんどの授業・行事・活動が対面開催となり、大学も本来の活気を取り戻しつつあります。既に、五月にオープンキャンパス、六月に学生交流会が開催されましたが、オープンキャンパスは学生スタッフ及びパネラーの皆さんの尽力により参加者の方々から好評を頂くことができ、学生交流会は実行委員及び参加学生の皆さんの積極的な活動により大変楽しいイベントとなりました。

新たな時代の幕開けに合わせた訳ではないのですが、久々に大学のホームページをリニューアルいたしました。既にご確認いただいている方もいらっしゃると思いますが、新しいホームページの中には、二〇二四年度へ向けてのアクションプラン「ACT 2024」を含めて公表させていただきました。「ACT 2024」は、「カーボンニュートラル（CN）」、「デジタルトランスフォーメーション（DX）」、

「シンポジウムを委員長校として開

「シンポジウムを委員長校として開

「シンポジウムを委員長校として開

「シンポジウムを委員長校として開

教育については、末武義崇学長が提唱する二〇二四年度へ向けてのアクションプラン「ACCT 2024」に基づき、「デジタルトランスフォーメーション(DX)」、「カーボンニュートラル」、「国際交流」の三つの柱を軸に進めております。本稿では、「DX」、「カーボンニュートラル」、に関する教育・研究活動についてご報告申し上げます。DX教育は、昨年度も本稿で紹介させて頂いた、文部科学省よりMDASH(リテラシーレベル)に認定された「足利大学・データサイエンス・AI教育プログラム」が、この四月で四年目迎えております。昨年度より、さらに高度な教育を行うMDASH(応用基礎レベル)の科目も開講しており(現在文部科学省に認定申請中)、より一層充実した内容となっております。特筆すべき事項として、足利市内の企業から依頼されたDXに関する課題を、足利大学が解決するプロジェクトが今年度後期から開始されます。本プロジェクトは、足利市・足利市商工会議所・足利大学の合同プロジェクトです(足利市・商工会議所・足利大学 合同記者会見の記事は、下野新聞五月二十三日号に掲載されています。)が、足利大学の授

業「地域DX化教育プロジェクト」として担当教員のサポートを受けながら学生主体で行われる特色のあるプロジェクトです。本プロジェクトを通じ、学生の皆さんがDX教育により身につけた知識を如何なく発揮されることを期待致しております。カーボンニュートラル教育は、将来の文部科学省による認定制度制定に備えて選出した科目を学内認定科目とし、二〇二三年度より開講しております。カーボンニュートラル教育プログラムは、再生可能エネルギー研究者、古民家再生をはじめとする木造建築研究者が中心となり作成されましたが、再生可能エネルギー科目の構築に中心的な役割を果たした根本泰行教授、中條祐教授(現・特任教授)が、それぞれ五月五日、六月十日にアドバイザーとして在京キー局放送の科学番組に出演するなど、学外からも高い評価を受けております。

以上、簡単ではございますが、工学部を中心に本学の近況を報告させて頂きました。今後も学生の皆さんに充実した学生生活を送って頂けるよう、努める所存にございますので、後援会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

後援会の皆様には、日頃より看護学部の教育・研究のご支援を賜り誠にありがとうございます。本年度、看護学部長を拝命いたしました青山でございます。私事ですが本学部開設時に着任し十二年目となります。開設時の山門学部長、そのあと杉原学部を引き継ぎ、これまで培ってきた本学部の教育・研究の充実に一杯努めてまいりますので、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護学部長

青山 みどり

「看護学部開設十二年目の今」

職者としての役割発揮が重要となります。看護専門職者の人材育成には、さらに教育体制の充実と工夫に磨きをかけていくことが必要であり、このことが人々の健康な生活の実現に貢献すると考えられます。本学部は、本キャンパス周辺の保健医療福祉施設、地域の方々の協力のもと、教育・研究し看護専門職者の人材育成に努めてまいります。本キャンパスでは、新型コロナウイルス感染症が五類になりましたが感染予防のため引き続きマスクの着用、体調管理を遵守してまいります。教育のなめとなる臨地実習が地域の保健医療福祉施設で行われること、学内実習・講義・演習を原則対面で実施したいと考えておりますため、ご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上簡単ではございますが、ご挨拶と本年度の看護学部の近況、近年の看護を取り巻く状況についてご報告いたしました。今後とも、後援会の皆様におかれましては、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

工学部における 新しい教育への取り組み



工学部 教務委員長

小林 重昭

後援会の皆様には、日頃より
本学の教育活動へのご支援を賜
り、心より御礼申し上げます。
工学部では、現代社会で求めら
れる知識・技術をもった学生の育
成と、地域社会・企業と連携し
たプロジェクトを通じて主体性や
課題解決力をもった学生の育成
を目的とした新しい教育プログラ
ムの拡充を進めています。その取
り組みについて紹介させていただきます。

本学では、現代の技術者に求
められるデータサイエンスやAIに
関する基礎的知識をすべての分
野に所属する学生が1年次から
修得可能な情報関連科目を整備
し、「足利大学データサイエンス・
AI教育プログラム」として取り
組んでいます。これらのプログラ
ム関連科目を修得することで、
文部科学省の数理・データサイ
エンス・AI教育プログラムのリテ
ラシーレベルに認定されます。今

年度は、さらに情報教育を充実
するため、同教育プログラムの応
用基礎レベルへの申請を行いまし
た。これにより、リテラシーレベ
ルについてはすべての在学生、応用
基礎レベルについては二〇二三年入
学以降の学生が関連科目の単位
修得と共に文部科学省の認定証
を得ることができるようになってい
ます。また、全世界的な課
題となっているカーボンニュートラ
ルおよび省エネルギー化に関する知
識と技術を日常生活や仕事等の
場で使いこなす基礎的素養をす
べての学生に身に付けてもらえる
よう、足利大学カーボンニュート
ラル（CN）教育プログラムとい
う本学独自の認定プログラムを昨
年度スタートさせました。これは
二〇二三年度以降の入学生が、一
年生、二年生向けに開講される
関連科目を修得することで認定
され、今年度はじめての認定証
が授与される予定です。

さらに今年度後期から「地域
DX化教育プロジェクト」という
科目が開講されます。五月には、
足利市役所において足利市、足
利市商工会議所および本学によ
る合同記者会見が行われ、新聞
等で発表がありましたので、後
援会の皆様におかれましてもご存
じの方もいらつしやるかと思いま
す。このプロジェクトでは、足利
市内の企業で抱えている事業のデ
ジタル化、情報関連の問題に学
生が中心となって取り組みます。
これは最近注目されている課題
解決型学習（Problem based
learning, PBL）
で、答えが一つに定まらないよう
な実社会の複雑な課題に学生が
プロジェクトとして取り組むこと
で、主体性や協調性および課題
解決力を伸ばすことが期待され
ます。すでに市内十数の企業様
から課題のご提案やお問い合わせ
をいただき、システム情報分野の
平石広典教授を中心に後期から
の実施に向けて準備が進められて
います。

本学では今後も社会のニーズに
即応した様々な新しい教育プログ
ラムを拡充させ、高い専門知識・
能力を備えた人材の育成に力を
入れて取り組んで参ります。今
後とも工学部の教育活動にご理
解とご協力をお願い申し上げます。

看護学部 の教育課程と 本学の取り組み



看護学部 教務委員長

沼田 加代

新型コロナウイルス感染症が蔓延する
前の生活に少しずつ戻りつつあり
ますが、看護学部では医療従事
者を目指すことから、当面は、
マスク着用による感染対策も重
視しながら、授業などは登校に
よる対面となっております。

看護学部の四年次と三年次以
降の入学生とは、カリキュラムに
部変更があり、現在の三年次以
降の入学生は、保健師助産師看
護師学校養成所指定規則の一部
改正による新カリキュラムとなっ
ています。現状、新旧のカリキュ
ラムが混在していますが、学生達に
とって、カリキュラムの一部、異な
りがあったとしても四年間の学び
は遜色がないように、教員は授
業内容の充実化と学生主体の学
びやすい環境づくりに努めていま
す。

ス・AI教育プログラムについて
です。趣旨は、データサイエンスお
よびAIの基礎的な知識の修得
と使いこなす基礎的素養を身に
付けることです。第四次産業革
命、Society 五.〇の社会
に必要とされる人材の育成の一環
となります。さらに、看護職に
なるには、保健衛生に関するデー
タの基礎的な集計・解析方法を
身につけることも今後、求められ
てくるといえます。そこで、本プ
ログラムの修了認定には、令和五
年度入学生からは、看護学部の
必修科目である「情報科学Ⅱ」
と「保健医療統計学」の履修に
より、現在の四年次と三年次は、
さらに、選択科目である情報科
学Ⅰと看護人間工学の履修が必
要となります。

二点目の紹介は、養護教諭に
なるための公立学校教員採用試
験についてです。近年の教員採用
試験の受験者減少の対策として、

工夫改善が広がっています。具体的には、公立学校教員採用試験の実施は、三年次からの早期受験や複数回受験の自治体もあります。令和六年度の三年次生からは、三年次の夏に教員採用試験の受験の機会があり、採用試験の受験に向けて、勉学に励んでいる学生もいます。

時代の変遷とともに大学の取り組みも多様化しておりますが、

学生各自が医療従事者として社会貢献できるよう教職員一同、教育活動に尽力いたします。ただ、最終的には、国家試験の合格は学生一人一人の学力が求められます。国家試験合格により資格取得となりますので、目指すべき道にそれぞれが進むことができます。今後、後援会のご協力と保護者様のご支援を、引き続きよろしくお願い申し上げます。

保健室や学生相談室と連携してきめ細やかな支援を行う体制を整えて参ります。

学生指導・支援の取り組み



看護学部 学生指導委員会

齋藤 みどり

学生支援の取り組み



工学部 学生指導委員長

森 慶 輔

後援会の皆様には学生のさまざまな活動にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

が以前よりも停滞気味になってしまっているのが心配されます。工学部学生指導委員会はこうした状況を受け、引く続きサークル活動やわたらせ祭の活性化を学生支援課と協力して実施して参ります。また、高校生活をコロナ渦中で送ってきた学生の中には大学生活を送る上で問題を抱えている学生が散見されることから、従前から実施している学生の出席履歴に基づいた就学支援や

コロナウイルス感染症が感染症法上の二類から五類に位置づけが変更され一年を経過し、学生のさまざまな活動がコロナ前の状況に戻って参りました。しかし、コロナ渦中でのさまざまな規制、制約が三年近く続き、また学生数も減少したため、学生が主体となつて行われるサークル活動など

わたらせ祭は十月十三、十四日に大前キャンパスで実施する予定で準備を進めております。保護者の皆様には学生の勉強以外の活動も是非ご覧いただければと存じます。また六月には学生自治会が中心となつて学生交流会が実施されました。昨年度再開した球技大会も十一月に実施する方向です。こうした学生の自主的な活動に対して学生支援課とともに支援して参ります。

このように学生生活もコロナ以前の形に戻ってきております。ウイズコロナ時代の新しい学生支援のあり方を模索し、学生が充実したキャンパスライフを謳歌できるよう、そして卒業時には足利大学に入学してよかつたと思つてもらえるよう、努力して参りますので、後援会の皆様からの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

後援会の皆様には日頃よりご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度は「アフターコロナ」と言われていますが、臨床現場では感染予防対策が引き続き重要です。本学看護学部でも、学生指導委員会が感染予防策を徹底し、手洗いや学内でのマスク着用を指導しています。

学生指導委員会は、「大学生として安心・安全で充実した生活を送るための支援」を目的としています。具体的にはアドバイザー制を導入し、学生個々と面談して学修面と生活面のサポートを行っています。加えて、各学年に二名のクラス担任がバックアップ体制を整え、学生の成長を支援しています。

さらに、年間に三回の保護者相談会を開催し、四者面談によるサポート体制を整えています。教務委員会や国家試験対策委員

会と連携し、学生の教育環境を整えるために尽力しています。六月には四年生の保護者説明会を開催し、十月には国家試験対策強化のための面談を予定しております。年度末には、成績不振者を対象とした四者面談も実施してまいります。

保護者の皆様と協力し、学生の成長を見守るため、四月には新入生保護者説明会を、六月には二、三、四年次生保護者説明会をオンラインで開催しました。オンライン開催は、保護者様に時間の許すときにご覧いただけると好評です。

各学年の安全サポートとして、一年生には「消費者カレッジ」を実施し、消費者トラブル防止の取り組みを行っています。また、各学生に金銭面や災害時のサポートを広報しています。教育的講座を通じて倫理観を育むことを目指しており、四月には一年生を

対象に「釈尊降誕会」を行いました。この行事は、仏教の開祖である釈迦の誕生を祝うもので、学生に仏教の教えを学び、思いやりや配慮の重要性を理解する機会を提供します。三年生は五月の臨地実習前に「誓願式」で看護の誓いを立てました。後期

には、二年生が十一月頃に「成道会」、四年生が一月に「涅槃会」に参加し、国家試験合格を祈念します。

どうぞ、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお申し込み申し上げます。

就職支援の 取り組みと現状



キャリアセンター委員長

木村 彰 徳

後援会の皆様には、日頃より本学学生の就職支援に関しまして多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。昨年度の内定率は、工学部が九十八・七％（留学生を除く）、留学生二〇〇％（就職者数二四七名／就職希望者二五〇名）、大学院修士課程が九十％（留学生を除く）、留学生五十八・三％（十六名／二十二名）、看護学部が二〇〇％（八十名／八十名）となりました。

新卒採用活動が活発な時期の

五月八日に新型コロナウイルス感染症が二類から五類に移行されました。コロナ禍によって就職活動は変化し、説明会や採用選考はオンラインと対面が併用されるようになり、その状況は変わらざる現在に至っております。学生は、そのような状況下で就職活動を行い、前年度以上に多くの学生が内定を得ることができました。これも後援会の皆様のご支援あつてのものと、重ねて厚くお礼申し上げます。

これまでの取り組みを「キャリア

令和5年度 足利大学後援会役員一覧

役職	氏名	所在地	学生所属	学年
1	会長	上野 ゆり子	下野市 看護	3
2	副会長	八幡 孝行	前橋市 電気電子	3
3	副会長	坂本 雅俊	さくら市 電気電子	2
4	会計	大野 晴代	足利市 システム情報	2
5	監事	田中 貴子	足野市 システム情報	4
6	監事	高野 美奈	足利市 建築・土木	3
7		牛久 雅広	栃木市 機械	4
8		高田 美恵子	足利市 機械	4
9		椎名 啓恵	足利市 電気電子	4
10		福地 めぐ美	館林市 電気電子	4
11		木村 沙織	佐野市 システム情報	4
12		谷川 宏明	桐生市 システム情報	4
13		齋藤 尚美	足利市 建築・土木	4
14		松島 由美子	伊勢崎市 建築・土木	4
15		新井 美穂	佐野市 看護	4
16		齋藤 三和	足利市 看護	4
17		町田 忍	大泉町 機械	3
18		岡田 誠	前橋市 電気電子	3
19		國安 三紀子	さくら市 システム情報	3
20		櫻井 麻美	足利市 システム情報	3
21		相澤 美佐子	佐野市 建築・土木	3
22		若井 周平	上三川町 看護	3
23		中田 かおり	佐野市 機械	2
24		栗田 京子	足利市 建築・土木	2
25		幸田 薫	足利市 看護	2
26		小林 広美	太田市 看護	2
27		阿部 誠	佐野市 システム情報	1
28		源田 卓也	足利市 システム情報	1
29		川上千賀子	大泉町 建築・土木	1
30		川田 高弘	宇都宮市 建築・土木	1
31		関口 礼子	足利市 建築・土木	1
32		刑部 美稚子	栃木市 看護	1
33		川村 千恵	佐野市 看護	1
34		上岡 太	栃木市 看護	1

アプリッジ・プログラム」と称し、教員とキャリアセンターが連携して学生と企業をつなぎ、希望にあった就職を実現するためにきめ細やかなサポートを続けております。

三年生のキャリア科目として単位認定をする夏季休業中の長期インターシップは、前年度の十五名から十九名に増え、学生が現場での作業を通して学生が学んだことを日誌にまとめ、それを企業様からご評価をいただいております。

工学部では、十月十日及び十一月八日に、東京方面二七四社、足利方面二五二社の企業様に参加いただき教員と面談を行う、就職情報交換会を開催いたしました。

十二月五日に、釈尊成道会法路ガイダンスを三年生に三回、四要及び特別講演会を開催いたしました。特別講演会の講師にレオン自動車株式会社人事部長の設楽正樹様を招き、「働くとは」世界は誰かの仕事でできている」と題してご講演いただきました。学生は熱心に聴講し、そして講演後に質問し、就職活動の本格的なスタートに向けて良いきっかけになったと思います。

学内企業セミナーを三月五日から七日にオンラインで開催いたしました。二六社の企業様に参加いただき、学生は延べ二〇五名が参加いたしました。学生は熱心に説明を聞き、活発に質問をしている姿を頼もしく感じました。

看護学部では、例年通りに進路ガイダンスを三年生に三回、四年生に二回を実施し、そしてキャリア講座を一年生に一回、二年生に一回を実施しました。二月二十日には、実習病院就職説明会を昨年に続きオンラインで開催し、七施設より説明をいただきました。三年生七十一名が参加しました。高い満足度が得られました。

その他に、学生の資格取得支援や「保護者のための就職ガイドブック」の制作を通して、学生の就職活動を支援することができました。

すべての学生が希望の企業に就職できるように、後援会の皆様と共に、学生と教職員が引き続き連携できればと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお申し込み申し上げます。

足利大学後援会収支決算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
繰越金	37,858,523	37,858,523	0	
会費	32,675,000	32,500,000	△ 175,000	1,300名分(@25,000円)(工学部978名、看護学部322名)
雑収入	247,653	10,397,452	10,149,799	学生災害傷害保険異動返還金 94,940円 クラブ援助金返金 240,152円 積立金取り崩し 10,000,000円 わたらせ祭返金 60,000円 他2,360円
計	70,781,176	80,755,975	9,974,799	

支出の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
1 運営費	2,800,000	2,037,751	△ 762,249	
会議費	1,400,000	1,057,035	△ 342,965	後援会総会・理事会等諸費用・退会役員記念品
事務費	500,000	330,000	△ 170,000	事務費一般
印刷費	250,000	187,396	△ 62,604	封筒2,000枚・後援会報1400部 他
通信費	650,000	463,320	△ 186,680	後援会総会通知発送費 1334通 他
2 学生助成費	28,900,000	7,592,497	△ 21,307,503	
学生研究補助費	900,000	110,500	△ 789,500	研究に係る交通費・学会登録費等
クラブ援助費	12,000,000	2,965,227	△ 9,034,773	参加費・連盟費・交通費・消耗品等
学生活動費	10,000,000	308,250	△ 9,691,750	わたらせ祭
卒業記念費	4,000,000	2,859,000	△ 1,141,000	卒業アルバム
保険料	2,000,000	1,349,520	△ 650,480	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	17,000,000	13,438,943	△ 3,561,057	
就職推進補助費	2,000,000	500,521	△ 1,499,479	成道会・就活支援
厚生事業費	3,000,000	1,026,602	△ 1,973,398	資格取得支援・検査費用補助・朝食サポート
教育環境援助費	12,000,000	11,911,820	△ 88,180	宿泊補助・テント・マイクロバス
4 慶弔費	700,000	106,500	△ 593,500	入学式等献花代 香典 他
5 雑費	100,000	0	△ 100,000	
6 積立金	20,000,000	20,000,000	0	
7 予備費	1,281,176	0	△ 1,281,176	
8 繰越金	0	37,580,284	37,580,284	
計	70,781,176	80,755,975	9,974,799	

積立金の部

(単位 円)

前年度繰越金	30,000,000
一般会計より	20,000,000
合計	50,000,000
支払金額	10,000,000
残高(繰越金)	40,000,000

上記のとおり相違ありません。

令和6年3月31日

足利大学後援会 会計 新井美穂
 会計 齋藤三和

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和6年6月15日

足利大学後援会 監事 増澤香織
 監事 上野ゆり子

令和6年度 足利大学後援会予算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収入の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
繰越金	37,580,284	37,858,523	△ 278,239	
会費	28,725,000	32,675,000	△ 3,950,000	工学部 859 名分、看護学部 290 名 (@ 25,000 円) ※ 5 月在籍数、休学・留学・留年除く
雑収入	300,000	247,653	52,347	クラブ援助金返還 248,948 円 学生災害傷害保険異動返還金 60,000 円
積立金取崩	30,000,000	0	30,000,000	
計	96,605,284	70,781,176	25,824,108	

支出の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
1 運営費	2,800,000	2,800,000	0	
会議費	1,400,000	1,400,000	0	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	500,000	500,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	250,000	0	後援会報発行印刷代 他
通信費	650,000	650,000	0	後援会総会通知発送費・後援会報発送費・AU通信発送費 他
2 学生助成費	27,500,000	28,900,000	△ 1,400,000	
学生研究補助費	500,000	900,000	△ 400,000	卒業研究等補助
クラブ援助費	11,000,000	12,000,000	△ 1,000,000	クラブ活動援助費
学生活動費	10,000,000	10,000,000	0	学生自治会援助金・わたらせ祭援助 等
卒業記念費	4,000,000	4,000,000	0	卒業記念アルバム作成費
保険料	2,000,000	2,000,000	0	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	45,000,000	17,000,000	28,000,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	3,000,000	3,000,000	0	朝食補助・情報処理資格試験補助 他
教育環境援助費	40,000,000	12,000,000	28,000,000	学内環境設備費(大型バス)・紅白幕
4 慶弔費	300,000	700,000	△ 400,000	入学式献花・香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 積立金	20,000,000	20,000,000	0	
7 予備費	905,284	1,281,176	△ 375,892	
計	96,605,284	70,781,176	25,824,108	

積立金の部

(単位 円)

前年度繰越金	40,000,000
積立金取り崩し	-30,000,000
一般会計より	20,000,000
合計	30,000,000

令和五年度は、前出のマイクロバスをはじめ、わたらせ祭等で使用できる大型テント十五張、入学式や学位授与式を彩る紅白幕等のご寄贈をいただきました。テントは令和五年度学位授与式、紅白幕は令和六年度入学式から使わせていただいております。各種ご支援、誠にありがとうございました。

最後に、後援会の理事や会員の皆様からの「意見・要望」について、事務局としても真摯に受け止め、学生へのサポートや満足度の改善等、最善の方策を探りながら進めていきたいと考えております。是非とも貴重なご意見をお聞かせください。

今後も後援会会員の皆様のご協力をお願いいたします。

学生の生活面のサポートとして、大前キャンパス(工学部)において後援会補助による「朝食サポート」を実施しております。学生が朝食を楽しめるように内容を変更しながら、また、朝食の重要性を知ってもらえるよう工夫しております。

本城キャンパス(看護学部)では、ご寄贈いただきましたマイクロスバスが実習の送迎を中心にボランティアや各種活動などで幅広く活躍しております。

令和五年度は、前出のマイクロバスをはじめ、わたらせ祭等で使用できる大型テント十五張、入学式や学位授与式を彩る紅白幕等のご寄贈をいただきました。テントは令和五年度学位授与式、紅白幕は令和六年度入学式から使わせていただいております。各種ご支援、誠にありがとうございました。

令和五年度は学生活動における制限がなくなり、大学祭「わたらせ祭」も五年ぶりに全面対面で開催されました。わたらせ祭実行委員会を中心に様々な企画を計画し、学生が一丸となつて創り上げた結果、二千人を超える方に来場いただき、充実した「わたらせ祭」を成功させております。また、後援会として模擬店を出店していただき、学生と共にわたらせ祭を盛り上げていただきました。今年度も出店予定を進めていただいております。

事務局 便り